

国際化学肥料ニュース（2022年8月）

肥料業界の2022年8月動態

* 8月第1週（8月1～7日）の尿素国際相場が上昇に転じた。これは、EUでの天然ガス不足による肥料生産に対する懸念が高まる中、窒素肥料の価格が引き続き安定しているためである。オランダのTTFガス価格は先週、約200ユーロ/MWhで取引されており、EUの肥料メーカーは収益性を重視して、生産量をさらに削減する能性がますます高まり、バイヤーが尿素を高価で買い集めている。また、硝酸系肥料の高値によりユーザーに尿素への切り替えを促して、EUでの需要をさらに押し上げている。

その結果、すべての地域でFOB価格が上昇した。中東では10月出荷の大粒尿素がFOB 660ドル/トンで販売され、先週より45ドル上昇した。オフシーズンのアメリカ湾岸でも、FOB Nolaも大幅に上昇した。また、エジプトではEU向けに8月と9月に12万トンを超える大粒尿素をトレーダーにコミットしたため、FOB価格は数日間で115ドルも上昇して、765ドル/トンで要求されている。

* 中国は夏季電力不足に対応するため、8月1日から各地の工業用電力に厳しく制限する。化学肥料産業も避けられず、一部の尿素工場が強制停電により稼働停止に追い込まれている。四川省、江蘇省と安徽省の3省だけで計7社の尿素工場が停止し、1日9000トン以上の減産となる。中国窒素肥料工業協会の統計速報によれば、8月第2週の中国尿素生産設備の稼働率が61.7%に下がり、生産量が13.7万トン/日前後で、7月末より4.6%減少し、前年同期より12.8%も減少した。

* 中国税関の速報によれば、2022年7月中国化学肥料輸出量194万トン、その内訳は尿素が38.3%減の15万トン、硫安が16.3%減の92万トン、DAPが65.5%減の34万トン、MAPが76.4%減の16万トン。1～7月の化学肥料輸出量が43.2%減の1136万トン、一番減少したのは尿素の67.2%減の87万トン、DAPの61.1%減の163万トン、MAPの59.7%減の104万トン。硫安だけが0.4%増の570万トン。

7月中国化学肥料輸入量75万トン、その内訳は塩化加里68万トン、NPK化成肥料4万トン。1～7月の化学肥料輸入量が10.7%減の533万トン、その内訳は塩化加里が6.4%減の475万トン、NPK化成肥料が42.4%減の44万トン。

* 8月第3週（15～21日）の尿素国際相場が先週に続き若干下落した。東半球ではインドネシアのPupuk社が行った大粒尿素の入札にはFOB555～560ドル/トンで落札された。中東産尿素のアフリカ市場への輸出もFOB500ドル半ばから後半の価格で売り出して、先週より80ドル/トンも下がった。

西半球ではヨーロッパの天然ガス価格がさらに上昇したことにより、この地域での将来の肥料生産に対する懸念が残っているが、8月夏休みのせいで大きな動きがない。メーカーは引き続き高い値段を要求しているが、バイヤーがこれより安い価格を求めている。アメリカではオフシーズンに入ったため、在庫している尿素有の再輸出を伺っている模様だが、南米のバイヤーがまだ市場に参入していないので、最大需要国のブラジルのCFR 価格が 600 ドル/トン未満に下がった。

最近の世界的な尿素有の需要減速にもかかわらず、メーカーは、インドの尿素有入札の後に価格の安定を望んでいる。また、今後数週間で予想されるヨーロッパの輸入需要によって、価格の下支えとなるだろう。

- * ヨーロッパの天然ガス価格高騰の影響を受け、ポーランドの **Grupa Azoty** 社と **Anwil SA** 社の 2 社もアンモニア合成と窒素肥料の生産を停止した。ロシアのウクライナ侵攻後、ヨーロッパの天然ガス価格が一年前に比べ 500% も上がった。ノルウェーの **Yara** 社、オーストリアの **Borealis AG** 社、スペインの **Fertiglobe Plc** 社などの大手肥料メーカーがすでに一部の窒素肥料生産ラインを停止した。コンサルティング会社の **CRU Group** の分析報告によれば、ヨーロッパのアンモニア生産能力がすでに 38% 以上も減少している。また、EU の肥料生産団体 **Fertilizers Europe** も原料ガスの価格高騰により、EU の肥料メーカーがすでに競争力を失ったと警告している。

- * インド肥料関係者の情報によれば、インド **RCF** 社は 8 月末から 9 月上旬に新しい尿素有国際入札を行い、100 万トンの尿素有を購入する計画がある。

- * アメリカの **CF Industries** 社とノルウェーの **Yara** 社は EU の天然ガス価格高騰を理由に EU にある窒素肥料工場の減産を決定した。8 月 24 日、**CF Industries** 社はイギリス **Billingham** 工場のアンモニア合成ラインを一時停止すると発表した。**Billingham** 工場の年間アンモニア生産能力 59.5 万トン、硝安 62.5 万トン、天然ガスの不足により 2021 年 9 月に生産が停止されたが、その後再開した。
8 月 25 日、**Yara** 社はヨーロッパにある窒素肥料の生産能力をさらに削減すると発表した。減産規模はアンモニア 310 万トン、尿素有 180 万トン、硝安 190 万トンと化成肥料 30 万トンである。

- * 7 月下旬、IFA（国際肥料工業協会）は世界的な化学肥料価格高騰により、農家が化学肥料の使用量を減少せざるを得ず、2022~2023 年度の世界肥料消費量が 7% 減少する可能性があり、食糧生産に大きな悪影響を及ぼすと警告を発した。

- * 8月30日、インド RCF 社が新しい尿素国際入札を行うことを発表した。9月9日締め切りと開札、10月21日まで船積みという条件で、100万トンを購入するという。これは今年4回目の尿素国際入札である。

大手各社の営業業績

- * カナダの Nutrien 社は 2022 年上半期の業績を発表した。売上高が 26%増の 132 億 8300 万ドル、EBTDA が 38%増の 16 億 6700 万ドル。肥料部門の業績が非常に好調で、販売量が若干減少したが、販売価格の高騰で、売上が大幅に増加した。肥料別では、加里肥料販売量が 0.4%減の 675.2 万トン、売上高が 216%増の 45 億 1800 万ドル、窒素肥料販売量が 9%減の 486 万トン、売上高が 115%増の 33 億 4200 万ドル、りん酸肥料販売量が 6%減の 120.7 万トン、売上高が 55%増の 10 億 7700 万ドル。
- * ドイツの K+S 社は 2022 年上半期の業績を発表した。売上高が 92.9%増の 27.22 億ユーロ、EBTDA が 406%増の 12.3 億ユーロ。主力の加里事業では価格の高騰で、販売量が 6.6%減の 366 万トンだが、売上高が 177.9%増の 14 億 7540 万ユーロになった。
- * アメリカの Mosaic 社は 2022 年第 2 四半期の業績を発表した。売上高が 92%増の 54 億ドル、EBTDA が 70.8%増の 20 億ドル。肥料部門では、加里肥料生産量が 14.3%増の 240 万トン、販売量が増減なしの 230 万トンだが、売上高が 70.7%増の 16 億ドル。りん酸肥料生産量が 10%減の 160 万トン、販売量が 15%減の 170 万トン、売上高が 50%増の 18 億ドル。化成肥料販売量が増減なしの 230 万トンだが、売上高が 76.9%増の 23 億ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * イギリスの Wood 社とオーストラリアの Strike Energy 社は西オーストラリア州に低炭素のアンモニアと尿素工場を共同で建設すると発表した。当該プロジェクトは Project Haber と命名され、風力発電と太陽光発電で 10 MW のオンサイト電解槽から分解した水素ガスを原料にしてアンモニアと尿素を生産する。不足の水素は西オーストラリアパース盆地から産出される天然ガスを利用する。30 億ドルを投資して、年間 140 万トン尿素を生産する計画である。
- * アメリカの Koch Fertilizer 社はカンザス州 Dodge City にある窒素肥料工場に 3000 万ドルを投資して、UAN（尿素硝安液肥）生産能力を 3.5 万トン／年増加させることを発表した。2023 年初頭着工、2023 年末に完成し、稼働する計画である。

その他

* サウジアラビアのサウジアラムコ社と SABIC 社は世界初のブルー水素とアンモニアの生産を認める独立認証を取得した。認証は、ドイツに本拠を置く大手独立試験、検査、認証機関である TÜV Rheinland 社が行ったもので、サウジアラビアのジュバイルにあるアラムコの製油所 (SASREF) の 8,075 トンのブルー水素とそれを原料とする SABIC AN の 37,800 トンのブルーアンモニアに対して付与した。